

パーソナリティ診断に於ける KO 式テスト・バッテリーの作成

1. 序	5
2. 評価項目並びに評価方法	9
3. KO 式テスト・バッテリー Short Form	11
4. 事例	13
5. 文献	21

執筆者紹介

まきた ひとし (慶應義塾大学名誉教授)

すがの ようこ (皆川記念病院)

1 序

パーソナリティを把握するには非常に多くの方法がある。図1はオルポート G.W. が人格心理学 (1) でまとめたパーソナリティ評価方法の分類である。この図の当否は別として凡そ、このよう

なものになるという点に関しては大方のパーソナリティ研究者に異存はないと思われる。われわれも同様である。

そこで、次の問題はこれらの技法の中のどれを

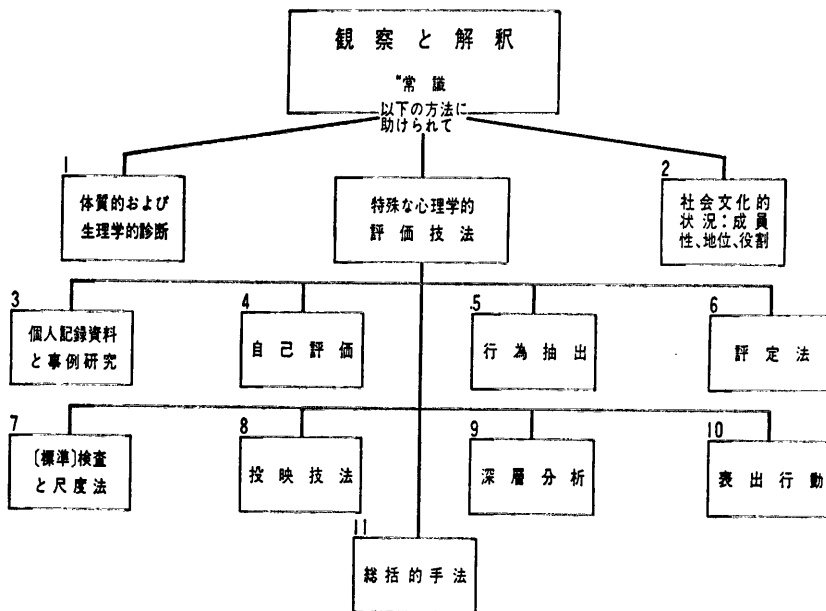


図1 パーソナリティ評価方法の分類

どの様に組合せるかということである。

これは、当然、目的、被検査者、時間的条件などにより様々になる。従って画一的な方法はない。

併し、いわゆる「パーソナリティ診断」を想定した場合に、基本的な枠組は或る程度考えられるし、又、考えておく方が好都合であろう。

その場合の基本的な枠組としてわれわれは図2のようなパーソナリティの構造を考えた。「性格は顔で分かる」槇田仁(7)これはWAI技法による自己像についての一連の実証的研究の結果得られたものである。具体的には「Who Am I?」という質問に20通りの答を書いてもらう。これを多数の人に答えてもらったものを整理・分析したものである。(詳細は巻末の文献参照。2.5.6.)これを見ると自己意識(≡パーソナリティ)の中味は凡そ7つのグループにまとめることができる。

その中の“社会”“家庭”のグループは主に環境的要因である。“身体”“知能”“気質”は主に素材

的部分である。そして“力動”“指向”がその人らしい“生き方”“ライフ・スタイル”に関する部分である。

また、これらは見方を変えると、“社会・生物的基础”に当たる部分といわゆる“性格”、“指向”という部分に分けてみることもできる。

このように考えると「パーソナリティ診断」とは図2のようなスキームの一部又は全体を図1のような技法を適宜組合せて把握することといえる。

これには無数の組合せがありうるが、著者は基本的にはSCT, WAI, Dosefu, PRTをベースにすることにした。(3.4.5.6.8.9)

その理由は2つある。第1は、①SCTはスキーム全体を広く浅く把握できる。その上でパーソナリティの核心部分である自己像を②WAIによって、更に興味の指向している方向を③Dosefuによって、更に、その人の“生”に対する関わり、方生活感情をPRTによって把握するというのが基本として必要であろうと考えたからである。

第2の理由は、それらについて出来れば“言語反応”による“被検査者の自発的表現”で扱いたいということである。

こう書いても、われわれは別に“共通特性”や“数量的把握”を排析しようというのではない。それらのものはパーソナリティを把握する場合の基礎として充分踏まえることが必要なのは云うまでもない。

これはパーソナリティ研究に於ける“法則定立的(nomothetic)”な方法と“個性記述的(idiographic)”な方法の問題である。

そして、著者はパーソナリティの理解にはつねに、この両者を併用することが必要であると力説してきた。併し、特定の個人——個性をもち、独自の個人、そのトータル・パーソナリティ——を理解するためには殊に個性記述的の把握が不可欠である。そして、そのためには「オシキセ」でない被検査者の自発的表現が望ましいということである。勿論、言語以外の表出行動その他も得られれば尚、結構である。併し、反応の曖昧さ、そこからくる解釈の多義性、時間、施行の簡便さその他

パーソナリティ	社会生物的基础(クラスターA)	社会	社会的地位 経済的水準 住居の地域 親の職業	文化(環境)
		家庭	家族構成 家族と本人の関係 躰のスタイル 家庭の雰囲気	
		身体	健康 体力 容姿 特技	素材(遺伝)
	知能	知能(IQ)の程度 評価の客観性 見通し 精神的分化度		
	性格(クラスターB)	気質	精神感性と気分素因 精神のテンポ 精神運動性	
		力動	安定度 劣等感 欲求不満 顕耀性	
	崇高(クラスターC)	態度	願望・興味 生活態度 価値観 人生観	

図2 自己意識より見たパーソナリティの構造

の条件を考え合せると先ず“言語”による表現が望ましいということである。

そして、その他に“必要なもの”“入手可能なもの”を随時、加えていけばよい。例えば、知能検査その他の能力検査、学校の成績、近親者、友人などの他者評価、日記、自伝など多いほどよいのはいうまでもない。

順序は、SCT, WAI, Dosefu, PRT の順序で施行する。

通常、1回のテストにかける時間は2時間が限度である。従って、前後に面接を入れて、大体、以下のようなやり方をとっている。

初回 面接, WAI, SCT, 面接

2回目 面接, Dosefu, 面接

3回目 面接, PRT, 面接

……………

もし、治療的要素が加味され、何週間か続くことが予想される時は、PRT は何回かに分けて施

行した方がよい。

そのような場合、著者は、初めはせいぜい2~3枚の図版にとどめ、インストラクションもかなり、くずした形で行っている。そして、物語も被検査者の脱線するに委せる。又、著者自身もどんどんお喋りする。それは、物語はあくまでキッカケにすぎず、一応の格好であり、図版を媒介にした面接のようなものである。

著者の考えでは、このような使い方が、最もPRT にふさわしい使い方であり、その長所を生かした使用方法であると思う。「かかわり分析」の中で山本も述べているように、TAT は「一人の人間」を、「そのいきさま」を共感的に理解するのに適した道具であり、「何らかの特性を測定する」、「精神病の鑑別をする」ための道具ではない。

話がそれだが、先に述べたようなやり方が KO 式テスト・バッテリーのスタンダードなやり方である。

2

評価項目並びに評価方法

パーソナリティ・スケッチ

(WAI, SCT, PRT, Dosefu, 総合)

		年 月 日記入				
氏名	男・女	年	月	日生	満	才

社会，生活空間

家庭，生活史

身体

能力

情意，柔軟性

力動，主体性，生活感情

指向，生き方，取り組み方，自己，SR，identity，超越者，Dosefu

病的特徴 その他

図 3

図 3 が評価項目の縮刷見本である。タイトルの下に (WAI, SCT, PRT, Dosefu, 総合) とあるのは、評価に使用したテストを○で囲むためである。4 種類共使用した場合は総合を囲めばよい。各評価項目に書かれている内容は図 2 の項目に WAI, SCT, PRT などの評価項目をキー・ワード的に適宜加えたものである。

評価方法は使用したテストを読み合せて各欄に

適宜スケッチしていけばよい。項目に分け、キーワードを記したのはあくまで目安である。

従って、各欄毎に記入してもよいし、全体的にスケッチしてもよい。要は一人の人間をトータルに了解し、無理のないスケッチを画くことである。このように考えてタイトルも評価用紙とせずパーソナリティ・スケッチとした次第である。

3

KO 式テスト・バッテリー Short Form

KO 式テスト・バッテリーについては 1, 2 で述べた如くである。

併し、実際の臨床の場に於いては、しばしば、短時間にテストを施行することが必要な場合がある。

このような、多少、浅くても、或いは、精度を犠牲にしても、それなりの結果を得たいという場合のために Short Form のテスト・バッテリーを開発することにした。

そのために、特に時間のかかる Dosefu はグループ・テストにし、PRT については Short Form (以下、SF 版と略記。) にするという方法をとることにした。

具体的には、初回、先ず、Dosefu グループ・テスト、次に、WAI, SCT の順でテストを施行。

これは、被検査者単独で行えるので、予診室、待合室などで、面接前に適宜施行する。そして、それらを診てから面接を行うと、かなり、効率よく、インテンシブな面接に入っていける。(但し、SCT は面接時まで書き了えてなければ、残りは持帰りにすればよい。)

そして、第 2 回目は PRT SF 版を行うようにする。

これは、絵を見せて「どんな絵に見えますか?」「何をしているところですか?」などと聞き、簡単な応答(「説明」「感想」など、例えば「子供が絵を描いているところ」「宿題で絵を描いている」など…)で、次の図版にうつるというやり方である。

そして、どんどんやっていく。或る程度、やって被検査者が慣れてきて、自我関与を示し、よく喋るようになったら、喋るにまかせる。このようなやり方でやっていくと何枚かは自我関与を示し、いわば、「のって」或いは、「のめりこんで」話すものがでてくる。

施行順序は一応つくってあるが、臨機応変にやればよい。その被検査者にとって、刺激が強くて、むしろ、マイナスだと思われるものは省いてもよい。又、被検査者に好きに選ばせてもよい。

このようにして、全部で 30 分~1 時間位で施行する。整理は、テープをかけ乍ら、簡単なメモをとる。後で、テープをきき乍ら要点をメモし、スケッチにまとめる。最後にバッテリー全体でスケッチをまとめる。

以上が臨床の現場で、実際に施行可能ということを前提にした簡易版のテスト・バッテリーで

ある。

勿論，“研究用”とか“ケース・スタディ用”に必要な場合は，従来通りフル・セットで施行すれ

ばよい。

次に，このような簡易版で施行した事例を一例として掲載する。

4

事例

以下に紹介するケースは、報告者（検査者）が或る研究会で知り合ったメンバーである。精神科医で、思春期摂食障害の少女を対象に集団精神療法を行っている。その過程で性の同一化を探るための心理テストの導入を考えた。そのためにはまず自分が体験する必要があると考え、自ら被検査者（以下 S と略記）を志願されたものである。また、ケースとして取り扱う事を快諾されたばかりでなく、データがなるべく正確に伝わるようにと、プライバシーに触れる部分をかなり生のまま残す事を提言してくださったものである。（一部削除）感謝をこめて、報告したい。

氏名： ケース J

28 歳 女性

テスト・バッテリー： PRT (SF), SCT, WAI, DOSEFU (Gr.)

施行年月日： 1992 年 7 月

報告者・施行場所： S. Y 心理臨床研究室

S は、山形県にある T 市に生まれた。医者である父親と看護婦の母親は、診療所を開いており、共に働いていた。幼稚園に上がるまで、祖父母に育てられた。小学校からは自宅で両親の帰ってくるのを一人で待つという生活であったが、3

年生の時に、父を病気で亡くす。代々医者の家系であり、その地域では名士であったであろうと思われる。その父の跡継ぎとして、S への期待は大きかった。本人も、それに応えようと、真面目に勉学に励み、成績も優秀で、“優等生”というレッテルを常に貼られていた。子供の頃のエピソードであるが、大人びた感じだったようで、よく本を読んでいたが、既に“チャタレイ夫人”など自然に理解できたと述べている。

県立高校を卒業後、神奈川県にある R 大学医学部に入学し、精神科を専門とする。現在、N 病院の常勤である。性（ジェンダー）の問題をテーマに研究をしており、このテストを施行した時は病院業務がかなり激務であり、自分の勉強時間が取れないという不満があったようだ。（SCTI-24

ストレートのボブ（おかつぱ）に、金属ぶちのメガネをかけ、一見〇〇女史という雰囲気がある。仕事中は、シャツに G パンという格好で、キリッとした感じで動き回っている。プライベートな時や、仕事関係の改まった席では、女性らしい服装をするようだ。そういう時は、メガネをコンタクトに換える事も多い。目上の人に対する態度も、きちんとしており、こまやかな気配りを見せ

る人である。そういった役割行動は、S の育った環境（祖父母の躰，地域的な古い文化 etc.）や、本人の知的高さなどに因るものと思われる。しかし、少し無理をしている所があるらしい。(SCTI-26)

テストは、3日に分けて行ったが、S は自身の分析結果が楽しみであるとし、真剣に取り組んでいた。WAI, SCT と平均より反応が多いが、清書することなく、思いつくまま書いていったようだが、時間はかかっている。PRT は、まず S に 20 枚の図版から 6 枚を選択してもらい、1 枚目と 8 枚目はこちらで用意した IMF とblank・カードを提示した。記録はテープに吹き込み、紙面の都合上、起こしたものをまとめた。実際には、3 時間くらい要した。DOSEFU (GROUP) テストの結果は、F タイプであり、感覚的な美意識の高い人であることが示された。(WAI-10 SCTI-23, PRT1/IMF)

既に述べてきた事と重複する所もあるが、この4つのテストから評価できるパーソナリティ・スケッチを、簡単に記述するので、後の raw material を参照していただきたい。

全体を通して、客観性・見通しの力があり、現実検討能力に優れていると思われる。精神分化度は、SCT, PRT の表現方法や使用される語彙を見ても、平均よりかなり高いと言えよう。

テストへの態度、反応量等は、たとえ動機が強くても、かなり心的エネルギーがあり、真面目な面を物語っている (E タイプ)。しかしながら、基本的には、自分の世界というものを確固として持ち、(WAI-14, SCTI-10-15, II-1) S タイプの特徴としての貴族性、思考性、非社交性、或いはデリケートな割りに部屋が汚れていても平気 (WAI-16) であったり、辛辣な面 (SCTII-24) をもっている。小児的な所は余り見られないが、数年前までは、H が強かったかもしれない。犬好き (随所) で、親族、友人を大切にしながらも、人とのコミュニケーションが実は余り得意とはいえなかった S であるが、“今はひとを愛すること、愛されることが少しずつ分かってきた。” (SCTII-11) というように、成熟してきたといえよう。社会的に認知されたいという意味では、geltung も多少見ら

れる。

趣味は読書であるが、ジャンルは幅広いようだ。また、音楽、絵、写真などの観賞も好きである。付き合いでは、カラオケもする。お酒は嫌いでないし、かなり強いほうではないかと想像する。嗜好的なことでは、自我を通す人かもしれない。(WAI-4, 18)

力動的側面については、WAI, SCT, PRT の各所に見ることができる。S 本人も認識しているのだが、ジェンダーの問題は、自分自身の問題でもある。既に述べたが、少女時代に亡くした父親の影響は多大である。祖父の事もよく言及されているが、祖母や母親の存在は薄い。(PRT3/NI, 7/N8) 性的同一性の、本人の中での未分化が感じられる。また、男性に対するイメージが、攻撃的といったマイナス・イメージがやや強いと思われる。(2/6c, 3/N1)

そして、顕著に見られるのは、無力感、不安、苛立ち、気分の変動といったものである。特に、“もっと、もっと頑張らないと” (PRT3/N1) という言葉は迫って来るものがある。人との距離の置き方に、かなりこだわっている。潜在的に落ち込んでいる事を想像させる。ストレスが非常に溜まっているのではないと思われる。

こういった結果の約4か月後、多発性胃潰瘍にて1か月の入院となり、暫く休職する。しかし、休養の成果あり、現在は通常の勤務に戻っている。晴天のへきれきであったが、当時の心身の状態から領けるテスト結果であったと、複雑な気持ちであるのが正直な所である。以下、raw material を載せる。

WAI

- 1 私は 28 歳の日本人です。
- 2 私は現在 1 人暮らしですが、郷里に母がいます。
- 3 私は本を読む事が大変好きです。
- 4 興味のないことを我慢してやり続けることはできにくい性格です。
- 5 私は T 市で生まれました。今でも時折なつかしく思い出します。
- 6 私は動物が大変好きです。特に犬は好きです。

- 7 論理的に道筋をつけて考えを進めるよりも感覚的に話す事が多い。
- 8 私は感情的になりやすく、それが外にでやすいようです。
- 9 時折疲れた時には1人で声をあげて泣くこともあります。
- 10 神秘的なものへの興味、関心がつよい。
- 11 私は他人の力を借りて物事を進めることが苦手です。
- 12 幼い時の私は高慢な所もありましたが今はそれが少なくなったと思う。
- 13 人生は、結局、自分で選りどって行くものだと思う。
- 14 他人から考えや意見を押しつけられることに反発を感じる。
- 15 私は料理が上手な方ではありません。
- 16 私は部屋の整理などが苦手だし、汚いことも多少なら気にしない。
- 17 私はぐちをこぼすよりもぐちを聞かされる方が多い。聞き役。
- 18 私はストイックな方ではない。快樂主義者。享樂的。
- 19 亡くなった人々を時々思いだし感傷的になる。
- 20 これからどんな生き方をしていこうか、考えあぐねています。

SCT

Part I

- 1 子供の頃、私は 人見知りをよくする子供だったと思う。知らない人に、あやされて、とてもこわかったことを覚えている。
- 2 私はよく人から お人よし、まじめ、几帳面、成績の良い子、等々、良い子扱われる。一方ではそれがうれしく、一方ではそれが重荷。
- 3 家の暮らし はごく普通だったと思うが、両親が診療所で一緒に働いており、夕方帰ってくるまでの1人ぼっちの心細さがたまらなかった。
- 4 私の失敗 は数多いが、小さい時から、おちょっこちょいで、ポカミスが多いと思う。大きな失敗は28年間の中ではなかった。
- 5 家の人は私を ○○家の長男であった亡父の

ようになることを期待しているようだ。私は、女性でありながら“長男”“家長”として育てられた。

6 私が得意になるのは、他人から、長所を面と向かって私にいつくれるとき。長所をほめられるのはうれしくせに、わざと何気ないような風を装ってしまう。

7 争い、事、とくに、怒鳴りあうような口論は好まない。父母が時々大きな声をだして、けんかをしていたことを思い出すから。

8 私の知りたい事は 私の父親と、祖父、私の血縁につながる既に亡くなった人が、今どうしているか。愛犬コロはどうなっただろうか。

9 私の父 は短気で、頑固な人。他人から見ると“変わった人”というような印象をもたれていたと思う。しかし私にとっては、大変、慕わしい存在。今も医師としても尊敬している。

10 私がきらいなのは 他人の気持ちを推し量ることのしない人。人の心の中に秘めておきたい事をせんさくする人。

11 私の服 は、どちらかというと単色で地味。これは父親の好みに似ていると思う。母親は派手なものを、よく着こなせる。

12 死 は、とてもつらいことだ。私は父親の死、生後3カ月から育ててくれた祖父の亡くなった時の状況を思い出すと、今でも胸が痛む。とても悲しい。

13 人々 に対して、小さい時、私はごうまんて多少見下すようなこともあったかもしれない。それなのに大人達は私を○○先生の娘として特別扱いするのがなぜかイヤだった。

14 私のできないことは 面とむかってNoといえないこと。少ない言葉で的を得た表現ができないこと。感情(自分の)をかくしきれないこと。

15 運動 の中では、走ることが好き。チームプレーも楽しいが、1人で頭の中でいろいろと考えながら走り抜くことは快感だ。

16 将来 の事を最近よく考えるようになった。私は子供をもつだろうか。夫とくらすのだろうか。一生Dr.をしているのだろうか。全く。あいまいだ。

17 もし私の母が 今、亡くなるようなことがあ

ったら、私は郷里に戻って“家長”とならざるを得ない。母が亡くなることを想像するだけでも耐えられない。

18 仕事 について、これまで私は私なりのプライドをもち、自分のできる限りの力をつくしたつもり。今は

19 私がひそかに 計画していること、これは誰にも打ち明けられない。大きなファンタジーすぎるので。

20 世の中 には、特に理由なく悪意をむけてきたり、あるいは、逆に、人情味のある暖かい人々もいる。

21 夫 となる人についての様々な空想。今の恋人とは大分かけ離れている。何となく、亡父のイメージに近いような気もする。

22 時々私は とりつくろうことができなくなり、露骨にイライラした様子や怒りの感情をだしてしまう。自分でも気づいているが、抑えきれない。

23 私が心ひかれるのは 美しい音楽。美しい写真。絵。女性の美しいヌード写真の美しい肢体は魅力的。人間の体の美しさ。

24 私の不平は 自分の精神医学について。勉強したいと思っている。医局で十分にできない事。しかし私も、十分努力していないのも事実。

25 私の兄弟(姉妹) について、小さい時、父母に弟がほしいとねだったことを覚えている。1人子で淋しかったが逆に周囲の愛情や関心を独占できたことはきもちがよかった。

26 職場では 私はとりつくろっている。男性のように考えようとし、一生懸命働き、なるべく女らしく振る舞おうとしている。

27 私の顔 について、小さいときはコンプレックスがあった。しかし今は整形してまで治そうとは思わない。私の顔も私自身の個性だから。

28 今までは 自分なりに努力してきたと思う。しかし、中学・高校・大学の受験のときのようないざ勉強が必要なきときには、あまり努力しない。

29 女らしさとは、どういうことだろうか？ 考えてもよくわからない。私は女なのだろうか。

30 私が思い出すのは 父親を納棺した時に、目から黄色い涙が流れていたこと。私が大学入学す

る間に死んだ一代目のコロがかわいそうで泣きながら抱き締めたこと。コロは二日後死んだ。

Prt II

1 家では 私は自分流の気ままな生活をしている。とりつくらないですむ場所。ふとんの中で好きな本を読む時が一番リラックスする。

2 私を不安にするのは 周囲の人々がイライラしている時。イライラや怒りの原因が自分になくても、とても不安になる。

3 友だち には今まで、何回となく支えられることがあった。本当に感謝している。中学・高校の友達とは離れてしまっているが、今でも、仲がよい。

4 私はよく 昔の友達、遠く離れた友達、亡くなった父親、祖父、自分につながる先祖、亡くなった愛犬コロのことを思う。

5 もし私が 年を取ったら、山と海の近いところで夫かボーイフレンド（ガールフレンドでもいいが）書物に囲まれ犬を飼って、静かにすごしたい。

6 私の母 は、単純な所もあり、喜怒哀楽もはっきりしており年齢の割りには、精神的に若い。お互いに友達のように話ができる。

7 もう一度やり直せるなら 父親、祖父、愛犬コロの世話をもっとみてあげたい。十分看護できなかったことは心残り。

8 男性 とは、いかなる生き物なのか、よく、わからない。私の周りには、小さい時から女性しかいなかったし。男性と女性との差はそれほど大きいものとは思えない。

9 私の眠り は、中学・高校の頃は安らぎ、楽しみであったが、今の私にとっては、眠りで安らぎを十分に得られていないような気がする。

10 学校では 私は“良い子”扱いされたり、友達とは別格扱いされたりすることを喜んでた。心のどこかで。実際に勉強家で優等生であったけれど。

11 恋愛 は、何年か前までは、よくわからない代物だった。人を好きになることはあっても、好きになれるのはイヤだった。今は人を愛すること、愛されることが少しずつわかってきた。

12 もし私の父が 生きていたら、母の人生も、私の人生は、大分変わっていたと思う。父親自身も医者としても父・夫としても、もっと生きたかっただろう。無念だったと思う。

13 自殺 を小さい時に、ささいなことで、考えたこともあったが、今は、考えられない。生きる限り、とりあえず生きてみよう。又、生れ変わるだろうから。

14 私が好きなのは 犬。香水。美しいドレス。お茶。つらいとき、かなしいときに、素直に言葉に出せる人。逆に、とことん辛いことに耐える人も好き。

15 私の頭 は、今、大分疲れており、余り、考えがまとまらない感じ。

16 お金 は、自由を得るためには、ある程度、必要なものだ。労働に対する正当な報酬は必要。なくてはならないと思う。

17 私の野心 は、精神科医として、“女性性”“男性性”について研究をすすめ、まとめること。社会的地位も望まないわけではないが、将来、上記のようなことを扱うクリニックをひらきたい。

18 妻 になることは、あるかもしれない。但し戸籍上の妻となることは、抵抗がある。

19 私の気持ち は、変わりやすい。ちょっとしたほめことばで、うれしくなったり、少しでも注意されるとおちこんだり。気分のコントロールが上手ではない。

20 私の健康 状態は良好だが、精神的な面での健康はやや不良。

21 私が残念なのは プライベートの時間をあまりもてないこと。つらいとき、悲しい時、自分をなぐさめるのが自分しかない。

22 大部分の時間を 仕事と読書に割いている。虚しい感じ。

24 調子のよい時 の私は、周囲から見ると、やや騒々しく口調もきついらしい。

25 どうしても私は 本を読まずにはいられない。本は私のエネルギーの源。ストレスの解消だから、乱読。

26 家の人は 私の自由、意思を尊重してくれている。この点は、とても母に感謝している。

27 私が羨ましいのは 父親の話を友達がすると

き。もう 20 年近くたっても、やはり、父親の話をするのはつらい。

28 年をとった時 私は、女でも男でもいいのだが、家族と共に山か海の露天風呂付きの一軒家に住んで晴耕雨読の日々を送りたいと思う。

29 私が努力しているのは 精神科についてのバランスのとれた勉強、Yes. No が角を立てずに、きちんと自分の意志を表明すること。

30 私が忘れられないのは 父親の入院。亡くなった時の様子。細々したことまで、今だに忘れられない。

PRT

1/1MF

小学校 4 年生か 5 年生の金髪の男の子。絵を描きたがっている。考えあぐねている。パレットに、二つか三つ、色が置いてある。青と黄色の、チューブ出している。そこまで出しているのに、なんで描けないんだろう。この子についての空想…。(どういう子?) 凄く繊細。凄く得意。絵の宿題じゃなくて。何か辛い。もやもやしたの、描きたいのかな。誰にも強制されていないのに。この子は、図工の成績はよくないかもしれないけど、絵とか、音楽を通して、独特な表現をする。楽しんでいる。でも、形が分からない。(出来るかな?) 例えば、具体的なもの、バナナとかでなく、抽象的に。ぱーっと。この子の心のもやもや。そのうち、急に筆を取って、黄色で、わーっと何か描いて、青で囲みそう。

2/6c

これは、よくわからないけれど、印象だけ言うと、嫌な感じのする絵。手、足、人の体なのか分からない。壁際にひざまずいて。ここに頭があるのかしら。くつろげる場所ではない。窮屈。アパートとか牢屋とか。一人は、(注: 二人いると見ている。) 少なくとも、足は裸足。別の人の股間にあるから、何か性的な行為かも。男同士かもしれない。性的な快感を感じていなくて、益々淡々と、むしろ、この人にとっては、力関係をはっきりさせるため。この手が、凄く嫌だ。なぜたりしているわけではなく。これから何かしそう。頭をなにか

つかんだり、毛をつかんだり、暴力的。アグレッションを受けている。なんだか窮屈。凄く弱々しくて、性的快感なくて、それでいて、止めようとも思わない。ただただ続けている。膝をついている男の人、屈辱感、弱々しさ。暴力的。なんで…そんなことするに、普通の部屋じゃない。監獄かしら。どこか、二人、閉じ込められている？(注：プレートを斜めにみる。)違うストーリー。閉ざされた、凄く狭い部屋。女の子が裸になっていた。性的なことさせられている。さっきのことでなくて。手が動いて、首をしめそう。言われるまま。男の人は、凄く怒っているみたい。怒る事は、傷つけたり、殺したりしそう。性的より、むしろ、暴力の名と同じような事。

3/N1

どうしたんだろう、この人。芝生でもないけど外国の人。G パンはいて。叫んでいる。来てほしい。自分でも出てきちゃったんだけど、助けを求めている。荒野みたいな所。彼女を助けてくれない。(逃げてきた？ 出てきたというのは?) この人は、まだ若い。三十くらいの人。急に家を飛び出してきた。結婚して、子供もいる。

なんで逃げてきたんだろう。走るだけ走って。一面の荒野。もう少し経ったらば。もう少し前に行ったほうがいい。逃げてきたところから、救われるかな…。

それとも、お父さんから逃げてきた。原因は、男の人。夫かお父さん。お父さんから叱られたのかもしれない。専制君主のお父さん。今も同じような状況。もっと遠くに、頑張らなきゃ。そこに待っている人はいない。キャッチしてくれる人は誰かが、来てくれそうな気がします。

止まっているみたいに見えるけど、逃げ切れない自分。少し休まなきゃいけないのかも知れない。

(なんで叱られたのかな?) 恋人かボーイフレンドはいるのだけど。叱られたというのではないけど、来てくれない。荒野で、水がない。慰めにならないお父さん。お父さんに助けてもらえない。本当は、お父さんに助けてもらいたいのに。もともと、お父さんは、荒野のような荒くれた人。気

づいているのかもしれない。

これ以上は解ってもらえない。飛だしてきて。今も味わっている。途方にくれている。誰もきてくれないだろうし、探しには来てくれない。ここに来てくれないだろう。どんな気持ちだろう。でも、まだお父さんの所にいる。逃げたいけど。道にぶち当たって。

お父さん以外の人に救いを求めないと解決しない。お父さんに未練があるのかもしれない。(お父さんと二人暮らし?) お母さんはいるようだが、お母さん、なんで追いかけてこないのだろう。もう、お母さんには未練がない。こう荒々しい夫と一緒にいなければならない。同じ女性としての怒りとか。お母さんは言うつもりもない。夫婦の関係を变える気もない。お父さんも、お母さんを諦めている。この先で待っているのはまったく見ず知らずの人。

この人はもっともっと頑張らないと。ちょっと心配になっています。

4/N9

雪がいっぱい。煙突のある家。一人見えるけど、家族で住んでるのかしら。外で見ているのは、男の人。ずいぶん距離。なんで入れないのかしら。窓際に立っているのは、奥さん。見えないところに、小さな子供と、旦那さん。くっろいでる。四十後半。割りと中年の人。何をしようとしているんだろう。この先何処へ行こう。どっちにむかって行けばいいのか。窓から見える光景。それを聞いているのかもしれない。立ったまま。行く当てが、はっきりしていない。誰々の何処何処の家へ行くというのでなく、(注：外から、18:00のチャイムの音) テクテク歩いて、おなかも空いているし、出来れば、中に入れてもらいたい。遠慮しているのかな。道で聞こえる笑い声とか、いい思い出。疲れとか、空腹とか別にして。自分も距離を置いて、思い出にふけている。行く先もはっきりしていないような行きずりの、四十~五十の男の人。家の人も、びっくりしてしまうのではと、躊躇している。疲れとか、宿を教えてください、食べ物を少し分けてください、と頼みたいけど、せっかくの楽しいゆうげ後の団欒を、無駄にして

しまうと、この人は、このまま、何処かへ向かって行ってしまおう。結局ノックできないですね。

この一家もつつましい生活を送っている。お父さん、お母さん、二、三人の子供がいて。自分の小さい時と重なって、はばかれたのかもしれない。そっちを大事にすることのほうが、大切に感じた。

何処に行くんだらう。また、夜中、歩き続けるのかな。

少しためらっているのかなと。この家が質素でつつましかで。

感情的になったのは一方ではあるけど。どこら辺のところまで立っているのは、悪い事考えちゃっているのかも。迷っているのかもしれない。どうしようかな。脳裏に少しあった、何か盗るとか、色々な気持ち沸き起こったけど団欒を中断させないでザックザックと雪を歩いて行く。このまま行き倒れになるかもしれないけど。カチャカチャする音とか。一瞬心がなごんだ。ひもじいのは変わらないけど、心のひもじさはとれたかもしれない。

5/N3b

丘の上を黒い雲が立ち込めている。灰色の空。歩いている人。女の人。年配。何か荷物。どこかに家。遠く。この辺にあるんです、家が。【(笑い)】60代くらい。ずいぶん田舎暮らし。買い物かな。ご主人が待っている。子供か友達。一つのこの人の。朝出掛けていたんだけど。1つくらい荷物を持つ。なだらかな丘。食料品。子供じゃないみたい。友達とおしゃべりして楽しんだ。行った時より重いかも。かくしゃくたる気丈夫なおばあさん。気分が結構良い。

おじいさんというかご主人がポツネンと待っている。ひとしきり、町であった事とか噂話とか、一通り言わないと気が済まない。二人で食べる。久し振りの外出だったから暫くいい気持ちでベッドに入ったと思います。いい感じに感じる。

6/N4a

凄く悲しい絵。施設みたいな、アメリカにあるような、未婚の母の施設の一室。凄く狭い。窮屈。

病室かも知れない。とにかく、とても嫌な感じのする場所で、壁にもたれて、泣いているみたい。何だろう。髪の毛も、短いけど。胸は大きくて、おなかも大きい。左手が、おなか、押さえてる。祝福されない妊娠。周りの理解得られず、「妊娠は止めなさい。」と。諦め。もう半分以上、諦め切った。絶望の気持ちを、抱いている。

本当は、妊娠するとは、思っていなかった。嫌いではない男性とセックスしてできた子。周りは、彼女の年とか、状況をいう。諦めてしまっている(近い将来は?)産みたいという気持ちは、ゼロではないけれど、てだてを見つめるほどの力を、今はもう、持っていない。産み通そうという力が無い。凄く憎しみとか、持っている。周りに対して。怒りとか、憎しみ。

本当は、産みたいんだわ、きっと。彼女は、自分の体の変化、乳房が大きくて、とか、違和感ないけど、産めない。

それとも、不本意な妊娠したのかな。別のストーリーでもいいですか?【どうぞ】私生児。もう、お乳張って、おなか大きい。自分の意思でなく。無力感に満ちた…。物凄く無力。とりあえず、ここにいなくちゃいけない。不本意の妊娠かも知れないけど、彼女ほど、うちひしがれている人は、いない。妊娠すること自体が、よくわからない事で、その人とセックスする気もないのに、現実を現実と受け入れられない。そんな感じですね。

7/N8

変だな。これは、面白い絵だな、と思ったんだけど。これは、さっきの話の続きでいくと、とりあえず産んで、養子縁組で育てられていく。その子供たちが、本当にいっぱい集まって泣いているのでなく、おなかがずいっていると、お母さん恋しいと泣いているのでなく、産み捨てへの抗議の泣き方。

黒い、ばかり、開いた口と、鼻の穴。【(笑い)】凄く変で…

【何か想像?】おなかの中みたい。お母さんみたい。【どの辺が?】ぼっかりあいた穴。なんだか、子宮を、超音波で立て切りにみた時の凶みたい。本当は、赤ちゃんがいるんだけど、産み捨てで、

「もういないよ」。赤ちゃん，怒ってるんだア。

面白い絵。抗議の声としたら，共感できる。妊娠しているけど，胎児のいない子宮，という矛盾。お母さんの希望。現在，お母さん，おなかに抱えないで，いっちゃってる。うーん，かわいそう。

8/12MF

うーん。さっきの男の子（IMF の主人公のこと）が，紙に，学校の先生に褒められないような

書き方で，描きだす。抽象的。三角形の黄色。青で海。海に黄を少しいれて，むしろ，太陽の光りを表すような。静かな海。お日様の黄色。なにか，海と太陽になって，彼のモヤモヤが消えて，満足できた。…そういう感じ。

8枚のプレートの好悪度：ライク・カード

N8, N3b

ディスライク・カード N6c

「あとはどうってことない」との感想

5

文献

- (1) Allport, G. W. 1991 *Pattern and growth in Personality*. New York: Holt, Reinhart & Winston.
(今田 恵監訳 1968 人格心理学 (上・下) 誠信書房)
- (2) 岩熊史朗・槇田 仁 1991a セルフ・イメージの発達的变化——WAI 技法に対する反応パターンの分析——*社会心理学研究* 6, 155-164.
- (3) 槇田 仁他 1965 *Dosefu Test 基本生活領域の診断* 金子書房
- (4) 槇田 仁他 1990 *PRT 絵画空想法入門* 金子書房
- (5) 槇田 仁他 1992 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (3) *組織行動研究* (慶応義塾大学産業研究所) No. 30 (Vol. 21)
- (6) 槇田 仁 1992 KO式テスト・バッテリー作成の試み *日本心理学会 第 56 回大会発表論文集*
- (7) 槇田 仁 1990 *性格は顔で分かる* 講談社
- (8) 佐野勝男, 槇田 仁 1955 *臨床心理に於けるテスト・バッテリーの構成* *精神医学研究所業績集* 2, 61-82.
- (9) 佐野勝男, 槇田 仁 1972 *精神式文章完成法テスト解説——成人用——* 金子書房